

第1回鏡野町総合教育会議 議事録（要点記録）

- 1 日 時 令和元年12月12日（木曜日）
午後1時00分開会 午後3時15分開会
- 2 会 場 中央公民館 第4会議室
- 3 出席者 町長 山崎 親男
教育長 年岡 康雄
教育長職務代理 石原 昭和
教育委員 佐古 庸二
教育委員 小椋 潤二
教育委員 宗川 万喜子
教育委員 赤松 幸子

（事務局関係）

- 総合政策室長 武本 学
学校教育課長 金平 美和子
生涯学習課長 黒瀬 豊
- 4 協議事項 (1) 幼稚園、小・中学校の状況について
(2) 小学校の教育環境について
(3) その他
 - 5 会議の経過及び発言
 - 開会
 - 山崎町長あいさつ
 - 年岡教育長あいさつ
 - 協議事項

(1) 幼稚園、小・中学校の状況について（意見交換）

武本室長 令和2年度のそれぞれの、園、小中学校の状況を説明願います。

年岡教育長 現在幼稚園は、郷幼稚園のみで上齋原幼稚園は休園中です。

お手元の資料のとおり、郷幼稚園は、令和元年度は、3歳児1名、4歳児6名、5歳児5名の12名です。職員体制は、校長経験者を園長とし、正規職員1名、臨時職員の2名体制です。郷幼稚園は長い歴史の中で運営され、郷地域の子どもの多いが、全町から通園しています。幼児教育の大切さを感じると同時に、子どもたちは日々成長しています。令和2年度は、現在のところ3歳児が2名、5歳児が6名の8名の体制でのスタートとなります。平成28年度からの推移を見てもらえればわかりますが、年々減少しています。しかし、大切な幼児教育の場ですので維持できればと考えています。小学校は8校で児童数は資料をご覧ください。学校の状況ですが、小さな問題もありますし、いじめも0ではありません。支援の必要な子供の比率も増えていますが、大きな問題はないと思っています。学校は、新学習指導要領による「主体的、対話的、深い学び」の準備段階に入っています。新しく教科化となる英語についても準備しています。既に教科化となっている道徳についてはうまくやれていると思っています。中学校は統合後4年目を迎え、現在の生徒は1年時より鏡野中に通っています。当初は大規模校で学ぶ不安を心配していましたが、先生の後押し、保護者の力添えで、新しい学校で勉強することが楽しいとの声も上がっていて、結果として町として素晴らしい教育環境ができたと考えています。

生徒数の推移は、各学年100名程度で、町長の理解により30人学級で授業を行っていますが、30人学級は県下では鏡野中のみで生徒にとっては良い環境となりました。剣道部が全国大会に出場するなど、部活動も成績が良くなっています。勉強だけでなく、いろいろな所で力を発揮できる学校となりつつあります。来年度からは、福井県の取り組みを参考に、数学の授業を「たてもち」にしようと考えています。教員がすべての学年の授業を持ち、繋がりが見える良さがあります。

大野小では、竹田、円宗寺地区に住宅が増えた関係で児童数が増加する見込みです。現在は1学年1クラスですが、教室不足の可能性もあるのかなと思っています。南小は、6学年12クラスで、弾力加配、町費教員の配置により20人前後のクラス作りができており落ち着いています。鶴喜小は少し落ち着きがなく、学校経営に支障をきたしています。教育事務所とも連携し対応していきたい。上齋原小については、保護者、地域の皆様とお話をし、令和2年度より奥津小へ編入します。奥津小は単式の学校なので、上齋原小の児童が編入しても困らないよう令和元年度に対応しているところです。奥津小も受入れ体制を整えています。教員については、極力上齋原小の教員が奥津小へ異動できるように教育事務所に働きかけたい。奥津、上齋原、富小は以前より交流学习に取り組んでいて、児童は不安に感じていないのではないかと考えています。

- 山崎町長 郷幼稚園の入園人数がかなり減少していますが、今後の運営はどのように考えていますか。
- 年岡教育長 近年は郷地区の方だけでなく、他の地域からも入園しています。まだまだ郷幼稚園が良いということで通園している人がいます。幼稚園・保育園のあり方検討委員会の答申に、郷幼稚園は、将来的には芳野こども園への移設も検討すべきとあるように、どの時点でどのようにしていくかの観点はあります。
- 山崎町長 この人数で推移していくなら、行政的には維持管理の面から見てもこども園と一緒にすることが望ましいと思えるのですが。
- 年岡教育長 この人数で推移すると令和 3 年度に何人入園希望があるかにより幼児教育ができる環境にあるかを考える必要があります。
- 赤松委員 運動会を見せてもらいました。保護者は園児のために一生懸命取り組んでいました。園児は人数が少ないため休みなく出ずっぱりで、他の演技をみることができなかった。保護者の気持ち、人数の推移を見ながら、意見交換をする場が必要になってくるのかなと思いました。
- 山崎町長 地域の代表者を交えての話し合いがあってもいいのかなと思います。
- 年岡教育長 これだけ急激に減少するとは予想していなかったのですが、来年 4 月に入園する園児の保護者の意見を聞き、また郷地区の区長の意見を聞く場を持つことにしてもよろしいでしょうか。
- 石原職務代理 園児数が 1 桁になれば運営面も大変だろうし、保護者に意見を聞く方向で良いのではと思います。区長に今後の保育園・幼稚園の人数の推移を知っていただくことも必要だと思います。
- 武本室長 続いて、(2)の小学校の教育環境についてですが、来年4月より上齋原小の児童は奥津小へ編入することに決まっております。当面、休校というかたちでいくと思いますが、人口も増えないし、上齋原小へ通う児童も増えないのであれば、いつかの時点で閉校するという事も考えないといけません。その決断をする時期はどう判断したらいいですか。町長のお考えはどうでしょうか。
- 山崎町長 施設の跡利用のことも関係すると思います。施設としてまだ良い環境下で次につなげたいが、まだ決まっているわけではありません。跡利用のことも含め、その時期がきたら皆さんに相談したいと思います。このままずっと子どもがいない状態であるのも不自然なので、跡利用も含めて判断したいと思います。
- 年岡教育長 昨年の保護者との意見交換会で、このままでは教育環境としては良くないので奥津小へ通うことはできないかという意見があり、区長に保護者の意向を説明しました。区長からは「保護者の意向がそうであれば何も言えない。ただ、中学校が統合し、幼稚園、小学校がなくなれば寂しいな」という意見もあり、当面休校という形になりました。年に2、3人でも出生すれば再開もありますが、0人の学年があると学校経営として望ましくありません。
- 佐古委員 跡利用の話は感情的にもすぐにしないほうが良いのではないかと思います。
- 山崎町長 それは十分理解しています。

年岡教育長 学園のネックは体育館が地区民体育館なので休校となっても体育館の電気、トイレは使用できるようにしておかないといけません。今後、施設管理をどうするかについて振興センターを交えて話をする必要があります。いつまで置くかは、意識しておかなければなりません。施設は利用していないとすぐに悪くなります。校舎にはエアコンも整備されているので、利用できるうちに跡利用のことを意識しておかないといけないと思います。地域の方の意見を聞きながらその時期を探っていきたいと思います。

武本室長 先ほど小学校児童数の推移を説明していただきましたが、上齋原小だけでなく、富、香北、香々美小も児童数の減少が予想されます。これらの小学校をこれからどう考えるかの話をしていただければと思います。

山崎町長 小学校は地元に残したいです。

年岡教育長 町長は以前からそう言われており、私も事あるごとに町長の考えを伝えてきましたが、令和4、5年あたりから課題が出てきます。香々美小は令和6、7年から30名を切ります。香北小は令和5年から入学0人が3年続きます。富小も令和5年から徐々に減っていき、8年には5名になります。上齋原小の保護者と同じように不安を持たれることが考えられます。どういう風にするのかということ考察しないといけないのかなと思います。仮に香北小と香々美小を統合しても令和6年度以降は30人を切る状況です。反面、大野小は右肩上がりです。教室が足りない状況になることが予想されます。竹田、円宗寺地区はこれからも人口増になると思われれます。

山崎町長 小学生にとっては少人数のほうが教育環境として良いのではないかと思います。

佐古委員 二面制があると思います。ある程度人数がいれば、球技もできるし、友達も変わり、子どもがたくましくなれるのではないかと思います。

山崎町長 いずれにしても小学校6年間は、人間形成をするうえで大切な時期です。できることなら、保護者の近くに置いておきたいと思いはあります。これから求められる専門的なものをもった子どもを育てるには、少人数の方が良いのではないかと思います。

年岡教育長 ただ、新学習指導要領で求められているのは「対話的」「主体的」「深い学び」です。小規模校の良いところはきめ細やかな指導です。その子に欠けている面を先生が拾い上げてしまうこともあります。多くの友達と関わるなかで「主体的」「対話的」という部分は伸びていくと思います。小規模校ではよほど優秀な教員が指導していかないといけないと思います。違う考え方に接することが少ないと、自分で考える力がつかどうか、壁に直面した際に、引き出しを4つも5つも持てるのか、1つしかないのかということになりかねません。

赤松委員 学校訪問しましたが、小規模校の先生たちは、子どもの能力が落ちないように一生懸命されていました。先ほど山崎町長が専門的なことを伸ばすと言われましたが、こういうものを追求していきたいという仲間が集まり知恵を出し合えば、ぐっと子どもたちは伸びていきます。今の授業は、自分がこういうこ

とをしたいという仲間が集まり、追及する授業が多くなってきています。そういう面では少人数ではどうかという面があります。

佐古委員 学校がなくなれば、地域との交わりがなくなり、地域から学ぶことができなくなる。地域のことを子供たちが知らないということにもなります。そういう面では、学校は地域に必要。いろいろな面があります。

山崎町長 そういう面では、地域に愛着を持っていると地域に帰ってくるようになってくるとも考えられます。

佐古委員 何を最優先に考えるか。難しいところです。

年岡教育長 学校に1人しか行かないなら、他の学校に行きたいと考える保護者もいます。学校があるから地域を守ると考えていたのですが、1人なら他の学区外の学校へ行く。転出することになり、学校があるから地域が守れないということに変化してきています。非常に難しい状況です。

宗川委員 子どもたちに何が必要なのかを考えると、子どもたちが助け合って育ってほしい。そういう環境が必要なのではないかと思います。深い関わりは何かというところを今考えています。

武本室長 この議論については、すぐに結論がでることでもありません。状況が変われば、考え方も変わるかもわかりません。次回もこの話題については意見交換したいと思います。

次に来年度から実施される小学校の英語の教科化について教育長に現在の状況を説明していただきます。

年岡教育長 英語の授業は基本的には担任がしますが、複式学級でも単式と同様にしたいと考えています。それには教員の確保が必要で、英語もTTの教員を2名確保させてください。

山崎町長 現状から授業の質が低下しないように対応してください。

武本室長 次に、小学校のトイレの洋式化について説明願います。

金平課長 南小学校よりトイレの洋式化の要望がありました。各小中学校には洋式トイレが各階に1つしかなく、和式に慣れていない児童は、その1つの洋式に集中し、休み時間中にトイレが終わらない状況です。洋式にするとトイレブースが1つ減るかもしれませんが、和式を使用しないのであれば、すべて洋式にしてもいいのではないかと考えています。児童、生徒数の多い、南小、大野小、鶴喜小、鏡野中の改修を計画的に実施したいと考えています。

年岡教育長 1度を実施することはできないので、計画的に実施したいと考えています。鶴喜小は令和3、4年度あたりに大規模改修を予定していて、それに合わせて改修したい。富、香北小等の小規模校は現状で十分足りています。

武本室長 改修計画を来年の6月にある令和3年度改修要望時に示してください。

宗川委員 その他「鏡野町にあったらいいな」の説明。

武本室長 ありがとうございました。

教育委員の皆様方には、長時間にわたり熱心にご協議いただきありがとうございました。